

「中国派遣参加報告書」

京都大学文学研究科3年 (氏名) 熊野貴文

①学習成果

復旦大学、香港城市大学との合同ワークショップへの参加は、私にとって今回で4度目の参加だった。他大学の学生と久しぶりに会うことができとても感激した。三大学合同ワークショップは年々内容が充実しており、今回も自分の研究に非常に示唆的な発表が多かった。哲学、考古学、歴史学、文学、社会学、地理学など様々な研究分野を志す大学院生が分野横断的に、かつ、国際的に交流する機会は意外に多くない。このワークショップがそうした新しいコンセプトを持った学術・文化交流の場として、これからもますます発展してほしい。

ワークショップでの中国人研究者との情報交換を通じて、中国都市をフィールドにした研究可能性を感じた。現代中国の大都市は、依然として国内の経済発展を牽引する一方、急速な少子高齢化が進展している。中国都市の多様な社会経済的側面に関する先行研究を読みたい。また、いずれ中国に長期的に留学に行ってみたいと志望するようになった。

②海外での経験

プログラム後半での巡検では、杭州の名所旧跡のほか、杭州の位置する浙江省の歴史が学べる博物館を訪問した。良渚遺跡では、紀元前に建設された都市の計画性、経済活動の分業体制、社会的階層分化について知ることができて非常に感心した。また、杭州の郊外に位置する龍井村は、古くから茶葉の栽培・生産が盛んで、生業と集落景観が結びついており、日本でいう「文化的景観」が形成されていた。しかし、みたところ観光地化も進んでおり、トップダウン的に観光施設の整備が進められていた。今後住民の生活と結びついた集落景観がどれほどまで維持されるのか興味深かった。杭州では、ご当地ならではの郷土料理も堪能できて感動した。特に、車で数時間の時間距離しかない上海と杭州とでそれぞれの料理に地域性があることは興味深かった。個人的には上海よりも杭州の料理の方が口に合った。

③プログラム内容

- 3月18日 上海浦東空港到着、ウェルカムレセプション
- 3月19日 開会式、京都大学蔵《苗蛮図》調査報告会、口頭発表
- 3月20日 口頭発表、ディスカッション
- 3月21日 杭州巡検（良渚遺跡、西湖）
- 3月22日 杭州巡検（浙江博物館、龍井村、靈隠寺ほか）
- 3月23日 上海浦東空港より帰国

④進路への影響について

前述のように、中国都市をフィールドにした新たな研究を始めてみたいと考えている。そのうえで、中国人の研究者と親交を深めることができたことは、このワークショップにおいて私が得た最大の収穫である。